

JARA 発第 28-1 号

平成 28 年 4 月 1 日

公益社団法人日本ボート協会
強化委員会
タレント発掘委員会

「継続強化制度」廃止と新設「メダルポテンシャルアスリート制度」について

継続強化制度の廃止について

これまで継続強化制度により、U19 から U23 カテゴリー、U23 カテゴリーからシニアカテゴリーへの移行を支援してきました。これにより、何名かの選手が上のカテゴリーへの移行がスムーズに行われ、特に、U23 カテゴリーにおいて大きな成果を挙げてきました。

一方で、タレント発掘事業の拡大により、メダルポテンシャルアスリートの 2 選手（高島選手・大門選手）がオリンピック選考の最終段階への進出、ワールドカップ 9 位などの成績を収め、一定の成果を挙げてきました。さらに、そのメダルポテンシャルアスリートを目指すタレント育成選手も存在し、複数の育成制度が乱立している状態となりました。これらの制度の整理のため、継続強化制度を廃止し、「世代間移行を重点的に支援する制度」として整理統合することとしました。

メダルポテンシャルアスリート制度について

2014 年以降、日本ボート協会タレント発掘委員会ではタレント発掘活動を盛んに行ってきました。2015 年度は 2016 年 3 月 22 日現在で約 2,700 名の選手を対象に発掘活動を行ってきました。今後、この発掘された選手を育成する事業への移行期に入ります。今後、既存のフィジカルの高い選手をナショナルチームへ送り出すというスキームを利用し、ナショナルチームとの連携をより高めることで、メダルポテンシャルアスリートの可能性をさらに高めるための育成環境整備を進めていく予定です。その実現のため、この度、メダルポテンシャルアスリート制度を新設しました。

認定基準について

メダルポテンシャルアスリートの認定基準は別紙表 1～3 を用いると同時に、水上パフォーマンスを別表の通り評価し認定します。なお、現段階での認定選手は別表「2016 年 4 月現在のメダルポテンシャルアスリート一覧」の通りです。

メダルポテンシャルアスリート認定には以下の(1)～(3)の3つの方法があります。

(1)水上パフォーマンスによる認定

水上パフォーマンスによる認定は下の表の通りです。(D)のU19選手が年度を重ねるごとに「U20 枠」→「U21 枠」→「U22 枠」となります。

対象はU19からU23及びU23からシニアカテゴリーへの移行を考慮し、U23カテゴリー後、3年までの選手とします。なお、すでにシニアカテゴリーのトップ選手に到達したと考えられる選手については、その年限を待たずメダルポテンシャルアスリートから除外します。

今後、状況に応じてトップ選手への強化制度の確立も検討します。

水上パフォーマンスによる認定対象となる大会における成績と継続期間

(A)メダルを獲得した選手	原則 3 年間
(B)軽量級種目において決勝進出した選手	原則 1 年間
(C)オープン種目において 8 位入賞した選手	原則 1 年間
(D)U19 日本代表選手	原則 4 年間

*対象大会とは、オリンピック、世界選手権、U23 世界選手権、U19 世界選手権、ユニバーシアード競技大会、ユースオリンピック競技大会を指す

(2)Wattbike スコアによる認定

タレント発掘事業で

別紙「表 1 メダルポテンシャルアスリート基準(Wattbike 3min テスト平均スコア)」

及び

別紙「表 2 タレント育成選手基準(Wattbike 3min テスト平均スコア)」

をクリアした選手に対して、「メダルポテンシャルアスリート」及び「タレント育成選手」の認定を行います。なお、ボート選手の認定にはエルゴ記録と合わせて認定します。

(3)エルゴメータによる認定

ボート選手を対象としたメダルポテンシャルアスリート認定は、このエルゴメータによる認定が主となります。

各年齢ごとに定められた基準（別紙「表 3 ボート経験者を対象としたメダルポテンシャルアスリート認定エルゴ基準」）をクリアした選手をメダルポテンシャルアスリートと認定します。

なお、メダルポテンシャルアスリートの認定・メダルポテンシャルアスリート A もしくは B への割り振りは、練習内容、成績などを理由にタレント発掘委員会・強化委員会、コーチ陣の判断により昇格・降格・取り消しを行うがあります。

実施期日は平成 28 年 4 月 1 日とします。